

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱第7条第4項の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和3年度第2回高松市子ども・子育て支援会議
開催日時	令和4年2月24日(木) 11時00分～正午
開催場所	高松市防災合同庁舎5階502会議室及びオンライン
議 題	(1) 貧困対策部会の開催についての報告 (2) 貧困対策部会・審議結果の報告 『「高松市子どもの貧困対策推進計画」の「高松市子ども・子育て支援推進計画」への統合～それに伴う「高松市子どもの貧困対策推進計画」の計画期間延長～』 (3) 今後のスケジュールについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	加野会長、生嶋副会長、池畑委員、金倉委員、橘川委員、久保（朗）委員、久保（直人）委員、合田委員、中橋委員、西岡委員、野崎委員、藤岡委員、増本委員、三木委員、牟禮委員、森委員、山田委員 計17人
傍聴者	1人    （定員 10人）
担当課及び連絡先	子育て支援課子育て企画係 839-2354

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、下記の結果となった。</p> <p>上記議題について事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。</p> <p><b>【主な質疑・意見等】</b></p> <p>（委員） 「貧困」と「非行」とは一定の関わりがあると考えており、香川県警においても非行少年に対する学習支援事業を行っている。高松市の場合、社会福祉協議会などが「学習支援事業」を行っていると思うが、毎週土曜日などにやっている塾で、学習支援員や民生委員の方々などから、子どもに何かいつもと変わった点はないかなど県警との情報交換を行えばよいと思う。</p> <p>（事務局） 本市で実施している「学習支援事業」につきましては、おっしゃるとおり高松市社会福祉協議会に委託して、現在市内の4箇所で開催しております。市社協の学習支援員と民生委員が教室に入り支援していただいている状況。申し訳ないが、警察の方への情報提供については十分把握できてはいないところが実情ではあるが、やはり必要なことであると思うので、市社協や民生委員と協議しながら、可能であれば、情報交換などもしていきたい。</p>

## 審議経過及び審議結果

(委員)

貧困や虐待の恐れのある家庭、親子を実際にたくさん見てきており、色々な支援をできる範囲でしているが、その子ども・親子がどのくらいの貧困で、どのような支援を今受けているかがよく見えない状態がある。ぜひ「見える化」をしてほしい。その「見える化」で支援を繋げて、ネットワークをより強化する必要があると考えている。その子どもたちがどのくらいの貧困の程度なのか、その深刻さをどのくらい掴んでいるのか、それを私達委員や、地域がどのくらいネットに繋がれているのかを知りたい。目の前の子どもがどのくらいの貧困で、きちんと手を差し伸べられているか心配である。

(事務局)

高松市における貧困の実態について、現在数値などで把握はできていない。これについては、令和7年に計画策定するにあたりニーズ調査の実施を考えており、子育て家庭の実態に合わせて、貧困問題についても個別に質問項目を設定して意識していきたい。これからの計画統合に合わせた取組みの一つとして対応していきたい。

(委員)

学校現場として、子どもの貧困問題と即結びつくかは別として、就学援助の件数がある。ただこのシステムを知らずに受けられていない方もいらっしゃるのでは（そのことについてはこれからの課題であるが）、一つの指標としてあると考える。件数としては増えてきているという印象を持っている。

(委員)

小学校の現場の例ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、家庭環境が大きく悪化した親子（母子家庭）がいた。その時には、幸い中学校区に配置されているスクールソーシャルワーカーを子どもと繋ぎ、解決の糸口を探していくことができた。母親の医療的なサポートも必要であったし、こども女性相談課との連携も必要となった。支援が必要な家庭を総合的に見ていく体制が大事だと感じた。

今回、2つの計画を統合することで、今後においても状況に応じて色々な関係機関が関わっていかねばならないと感じている。

(会長)

現在、「ヤングケアラー」の問題も注目されている。従来の本市の対策の中にはこの内容はなかったが、これから5～6年の計画を策定する中で、こういった問題についても対応していかねばならないと考える。次期支援計画は令和7年度からであるが、緊急を要するものについては随時対応していきたい。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大変な状況にある家庭もあり、どう対応していくかが大事だと考える。

(委員)

この支援会議のように、様々な立場にある人たちがもっと活発に議論ができるような場が必要だと感じる。例えば、生理用品やおむつの無料配布について、困窮している御家庭にとって必要であると思うが、一方で、誰でも無料で配布することが本当にいいことであるのかが疑問である。子育てをする上で、先を見越して準備することも育ちの力として必要ではないかと思った時に、貧困問題として発言する方がいる一方、子どもの育ち・親育ちの問題として発言する方もおり、十分に議論し、他都市ではなく、高松市の子育て家庭をどう支援したいのかということ、会議の中で議論したいと思った。

## 審議経過及び審議結果

(会長)

この支援会議は年に2回ほど開催され、計画を作る時は少し多くなるが、なかなか踏み込んだ意見交換ができないといったジレンマがあると思う。例えば当事者の声をどのように受け止めていくか、そういう機会をどのように作れるかということも、この支援会議の新たな課題になってきていると感じた。

先ほど言われたように、「福祉のパラドックス」のようなものがあり、「支援しあげなくてはいけない」ということから、支援を受ける側の力を奪ってしまうということがあるので、なかなか一面的に物事は見えないということをつくづく思う。

(委員)

様々な部局が連携して、貧困問題だけでなく、子どもの育ちというところをサポートしていくことが必要だと思うが、関わる場所が増えるほど漏れ・抜けの原因が発生しやすいと思う。制度や仕組みの狭間で漏れ・抜けが発生しないよう、市役所内でもしっかりと連携が取れば良いと思う。

子ども食堂やフードパントリーに行くと、経済的には困窮していないが、精神的に不安定であったり、夫婦関係が上手くいっておらず子どもへ目が向けられていないとか、誰かと話したくて孤独だから来ているとか、様々な背景を持っている人がいる。民間の連携も進めていきながら、行政の内部でもぜひ積極的にお願いしたい。

その他、委員からの質疑・意見等はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以上